



2017年10月27日

ビーバー・バルーン・クラブ創立25周年記念  
絵本『熱気球の冒険』～夢を乗せて大空へ～』を発行

共栄火災海上保険株式会社（本社：東京都港区新橋1-18-6、社長：助川 龍二）は、当社が所有する熱気球「まもるくん号」の運営を委託しているビーバー・バルーン・クラブ（所在地：佐賀県佐賀市、会長：鶴崎 伸一 氏／当社佐賀支社代理店店主）が今年で創立25周年を迎えたことを記念して、子供たちに向け、熱気球についてわかりやすく解説した、絵本『熱気球の冒険』～夢を乗せて大空へ～』を発行いたしました。

『熱気球の冒険』～夢を乗せて大空へ～』の作成背景

ビーバー・バルーン・クラブを創立してから25年間、全国各地の小学校や児童養護施設などを訪問し、これまでにたくさんの子供たちに「まもるくん号」のフライトを体験してもらいました。

こうした経験から、普段接する機会が少ない熱気球という乗り物を、子供たちが少しでも身近に感じてもらえるきっかけになればという思いから、熱気球の種類や飛行する仕組みをわかりやすく解説した絵本を作成しました。



表紙（上）と紹介ページ



## 熱気球「まもるくん号」の製作背景について

当社が熱気球を製作することになったのは、熱気球の聖地である佐賀県に在住し、長年のボランティア活動に携わってきた鶴崎伸一氏（当社佐賀支社代理店/佐賀鶴崎の店主）が、「体が不自由な方々にも大空の素晴らしさを味わって欲しい」との思いを実現させるために「ビーバー・バルーン・クラブ」を結成、これに対して当社も、ふわりと浮かぶ熱気球の姿が人の心を和ませ、そして何よりも、当社社員が参加できる熱気球を活用した社会貢献活動が可能となるとして製作する運びとなりました。なお、これまで製作・導入した熱気球は6機となり、1号機から3号機が引退の後、現在は4号機から6号機の3機の熱気球が飛行しています。

## ビーバー・バルーン・クラブについて

きっかけはある一人の障害者の方が言った「私も鳥のように自由に空を飛びたい、風のように早く走りたい」という言葉でした。1992年4月に誕生した「ビーバー・バルーン・クラブ」は、児童養護施設や肢体不自由児施設の子供たちを中心に「大空を駆けめぐる」感動を味わってもらおうと、1992年7月から西日本地区を中心に、熱気球搭乗体験イベントを実施してまいりました。

「ビーバー・バルーン・クラブ」のユニークな点は、メンバーのなかに身障者が多いこともあり、アマチュア無線で連絡を取り合っていることです。これならば身障者の方でも自宅に居ながらにして競技やミーティングなどに参加できます。チームの活動は、各種大会等への出場を目指す練習だけにとどまらず、佐賀市の社会福祉協議会等の協力のもと、社会福祉施設への慰問や地域のボランティアへの参加も積極的に行っております。なお、同チームの活動はあくまでも自発的な意志を尊重しており、メンバー各自の仕事を優先しながら活動しています。